

職員による自己評価

A環境面

利用者の人数によっては狭く感じることもあり。

B児童への支援内容

商業地域の特性を活かし、買い物や通所支援などを行っている。

ほぼ毎週土曜日、外出などイベント企画している。地域の行事などにも参加。

指先を使う作業などを毎回提供している。

集団活動を日々内容を検討している。

外食や調理など定期的におこなっている。

C関係機関との連携

基幹センターや区役所のワーカー、学校、計画相談員と連絡を密にしている。

ケース会議に積極的に出席している。

D保護者への説明責任・信頼関係

面談を半年に一度行っている。

何かあればすぐ保護者に連絡している。

保護者会の開催。年2回。

E非常対応

保護者の携帯に連絡

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化されていないところがある。

B児童への支援内容

漢検、数検などあり、学習支援が多くあった。

C事業所からの情報発信

面談を半年以内に行っている。

2024年度保護者会、6月と2月に開催

D非常対応

問題なし

事業所内での分析

【共通点】

非常時の対応。活動内容の見直し。

漢字検定や算数検定を通して学習支援をおこなっている。

利用者が安心して活動できる場所。

学童やキッズとの関わりみられず。

【相違点】

ホームページ更新、定期的に行っている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

生活スキルをみにつけるための、取り組みを色々行う環境が整っている。

毎週土曜日、毎月祝日、お出かけ、外食、施設内でのイベントをスタッフが企画し行っている。

(買い物や公共交通機関を使った支援)

三単位になり、様々な学年の利用者がおり、進学、進路の見通しを持った支援が行える。教員や保育士、介護職の経験があるスタッフがおり、多様なサービスの提供ができる。また学生アルバイトも多くおり、いろいろな年齢層のスタッフとかかわることができる。

事業所の改善点

小学校1年生～高校3年生まで、継続した支援を行っていく。

三単位の特性を活かし、それぞれの特性にあった部屋選びを行っていく。

スタッフのスキルアップのための研修会などや、事例検討会の実施。

それぞれの利用者の特性や保護者の希望にそった支援の見直し。

支援プログラムの五領域の単位ごとに明確化していく。

事業所の改善への取り組み

- ・三単位の強みを活かし、成長段階に合わせた支援をしていきたい。
- ・利用者の特性にあった支援をスタッフで共有し取り組んでいきたい。
- ・保護者のニーズにあった支援を今後もできるだけ提供していきたい
- ・コミュニケーション能力を向上し、自分の特性を理解できるように支援していきたい。
- ・意思決定支援に対し取り組んでいきたい。
- ・スタッフのスキルアップのための取り組みを開始したい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・金沢文庫プレップは開所10周年を迎えました。

継続し利用してくださっている利用者も多くおり、高評価を得られたと思います。

今後も世の中の状況を見ながら、個々の特性を理解し保護者と利用者本人のニーズに合わせた支援をしていきたいと思います。

事業所名 プレップサポートセンター金沢文庫

担当者 秋本 愛